

ベトナム官民合同委員会結果概要

日時： 2019 年 12 月 26 日(木) 9:15-12:25

場所： ハノイ電気機械職業訓練短期大学(HCEM)

参加者数： 22 人

政府(4)： 越 職業教育訓練総局(DVET) 部長を含め 3 人
日 厚生労働省 海外協力室長

訓練校(10)： HIVC、HaUI、HCEM、SHTP-TC、HVCT

企業(3) 北部 3 人

援助機関(2)： JICA 事務所

有識者(1) SESPP 事務局技術顧問

事務局(2) JTB 霞が関事業部 2 人
(別途、日越通訳 1 人)

1. 今年度の成果

- (1) 機械加工職種(旋盤、フライス盤)
 - 2 級旋盤技術指導研修(HVCT)
 - 2 級旋盤トライアル、評価者認定(HIVC)→4 名の認定評価者誕生
 - 3 級フライス盤評価者講習、トライアル(HVCT)
- (2) 機械検査職種
 - 3 級トライアル、評価者認定(SHTP-TC)
 - 3 級トライアル、評価者認定(HaUI)→4 名の認定評価者誕生
 - 学科試験問題データベース作成(HaUI)
- (3) 電気機器組立て職種(シーケンス制御)
 - 2 級評価者講習(SHTP-TC)
 - 2 級技能評価技法講習、トライアル、評価者認定→5 名の認定評価者誕生
- (4) 本邦研修 2 週間 2 名
シーケンス制御に係る技能評価技法講習、技能五輪大会(愛知)の視察

2. 次年度実施に向けた提案(厚生労働省)

- (1) シーケンス制御作業： 2 級技能評価技法講習、トライアル、評価者認定(ハノイ)
2 級評価者講習、トライアル(ホーチミン)
- (2) 機械加工(フライス盤)： 3 級トライアル、評価者認定(ホーチミン)
- (3) 機械検査： 2 級技能評価技法講習、評価者講習、トライアル
- (4) CAD 製図： 評価者講習、トライアル
- (5) 本邦研修：電気系保全作業 3 級、技能五輪大会の視察

3. 官民合同委員会での主な意見

(1) ベトナムの国家技能検定システム

雇用法及び社会のニーズに鑑み国家職業技能標準(NOSS)を作成。当該標準に基づき学科問題及び実技問題作成して、評価試験を実施する。認定証明書も出す。

最新の技能標準が2職種追加され、そのうち1つは旋盤で学科・実技問題集が出来た。

本年度289名の評価者トレーニングを実施。国家技能検定で18職種8,000人が認定された。SESPPの認定評価者はベトナムで認定手順が確立されていないためこの数には含まれていない。(DVET)

(2) 機械検査の国家検定化について

機械検査は日本、ベトナムともに非常にニーズが高い職種であり、ハノイ、ホーチミンともに日系企業を中心に多くの受検希望者がある。ハノイ工業大学に協力を依頼の上、機械検査のNOSSを作成してほしい。(有識者)

モチベーション、社会的認知度向上につながるので国家検定化して欲しい。(企業)

機械検査の問題集の提供を受け、DVETに対し、国家検定化するよう依頼。(ハノイ訓練校)

(3) シーケンス制御の国家検定化について

シーケンス制御は5人の認定評価者が誕生した。NOSSを開発して、是非、国家検定化を進めてほしい。(有識者)

国家検定化する条件としてはまずはNOSSを作成する必要がある。NOSSの開発後にすぐに国家検定化ができると思う。(ハノイ訓練校)

(4) 2020年に向けての提案

MOLISAと厚生労働省の間で技術、予算等の内容が盛り込まれたMOU(覚書)を作成後、厚生労働省が選定した職種について、国家技能標準を作成するようMOLISAに協力依頼してはどうか。またベトナムの国家職業技能標準と日本の職業技能基準に整合性が無いので、日・越の専門家による技術セミナーを希望する。(DVET)

⇒ SESPP事業はODA事業であり、ベトナムでの国家検定化を支援するもの。ベトナム国内のニーズによる職種の選択を厚生労働省からリクエストするのは適切ではないと思われる。職種選択やSESPP事業に関してMOLISAの担当部署及びベトナムの専門家に日本の技能基準を説明することは可能であり、日本とベトナムの職種レベルの分け方や技能標準における人材能力の範囲の違いに関しては、日本のものを参考にして作成頂ければいいのではないかと。(厚生労働省)

⇒ 参考にして、調整し、国家職業技能標準を作成する。まずは機械検査から作成に取り組む。(DVET)